

# 芽数管理がいちご「とちあいか」の収量、収益性、作業性に及ぼす影響

## 1. 成果の要約

「とちあいか」の芽数管理は、定植直後に不定芽を1芽残すことで、単価の高い1月下旬~2月上旬の収量が増加し、収益性の向上が図られることが示された。作業性はやや低下するものの、年内に不定芽を1芽残す管理は有用であると考えられる。

## 2. キーワード

いちご、とちあいか、芽数、先端障害果、不定芽

## 3. 試験のねらい

とちあいかの収量確保および先端障害果の発生抑制のため、適正な草姿管理技術を確立する。

## 4. 試験方法

- (1) 栽培様式 土耕栽培 夜冷作型
- (2) 試験規模 20株2区制
- (3) 処理内容

処理区	時期ごとの処理内容		
	定植直後	一次腋花房開花後	二次腋花房開花後
不定芽除去①	不定芽除去	不定芽除去	不定芽除去
不定芽除去②	不定芽1芽残し	不定芽除去	放任
放任	放任	放任	放任



- ※注 1.不定芽除去：下位の節に発生する弱い芽を除去。
- 2.不定芽1芽残し：通路側の不定芽を残した。

図 不定芽除去②の除去方法  
(定植直後~一次開花の期間)

### (4) 栽培概要

2022年6月27日に採苗、仮植を行い、育苗中は窒素成分で120mg/株を錠剤肥料で施用した。8月5日から夜冷短日処理を開始し、花芽分化が片形成期に達した9月1日に、畝幅110cm、株間24cmの二条高畝に定植した。本ぼの元肥施肥量はa当たり成分で、N 1.5kg、P<sub>2</sub>O<sub>5</sub> 2.0kg、K<sub>2</sub>O 1.2kgとした。マルチ被覆は10月17日に実施した。保温は11月4日に開始し、ハウスの温度管理は、11月4日から12月13日までは午前25℃、午後23℃、12月14日から2月26日までは午前27℃、午後23℃、2月27日以降は、午前25℃、午後23℃とした。最低夜温は8℃で管理した。

## 5. 試験結果および考察

- (1) 頂花房の開花および収穫始期、不定芽花房の開花始期には、処理区間で大きな差は認められなかった。一方、放任区では、一次腋花房の開花および収穫始期が約10日遅れるとともに、不定芽花房の開花および収穫始期は、他区の一次腋花房と同程度であった(表-1)。
- (2) 1株当たりの総収量および単位面積当たりの収量には、処理間で大きな差は認められなかった(表-2)。ただし、芽数が多いほど収穫果数が増加し、平均1果重は小さくなる傾向が見られた。
- (3) 1月下旬~2月上旬の収量は、放任区で約210g/株と最も多く、不定芽除去②区で約190g/株、不定芽除去①区で約170g/株であった。また、不定芽を残すことで、不定芽除去区①で認められる4月上旬の収穫の落ち込みが緩和された(図-1)。
- (4) 障害果発生率は、乱形果が不定芽除去①区で多かった。不受精果、先つまり果、先白果について、処理区間で明確な差は認められなかった(表-3)。
- (5) 販売金額は、不定芽除去②区が最も高かった(表-4)。
- (6) 年内の作業性(葉かき、芽かき、ランナーとり)では、芽数を管理する不定芽除去①区および不定芽除去②区の作業時間が多く、特に不定芽除去②区は残す不定芽の選定に時間を要した。2月以降は、放任区の作業時間が最も多く、芽数が多い区ほど合計作業時間も増加する傾向が見られた。収穫作業時間についても、芽数が多い区ほど時間を要する傾向が認められた(図-2、3)。

(担当者 いちご研究所 開発研究室 稲葉瑛世\*、畠山昭嗣)  
\*現芳賀農業振興事務所

表-1 各処理区の花房ごとの開花および収穫始期 (月/日)

処理区	頂花房		一次腋花房		不定芽花房	
	開花始期	収穫始期	開花始期	収穫始期	開花始期	収穫始期
不定芽除去①	9/28	10/22	11/24	12/28	—	—
不定芽除去②	9/29	10/26	11/25	12/28	11/22	1/5
放任	9/27	10/26	12/2	1/7	11/21	12/28

表-2 各処理区の月別収量

処理区	月別収量 (g/株)								年内収量 (g/株)	合計収量 (g/株)	(比率)	単位面積換算収量 (t/10a)
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月				
不定芽除去①	18	87	30	168	297	248	147	216	135	1,211	(100)	7.3
不定芽除去②	14	101	39	192	304	275	162	170	154	1,257	(104)	7.6
放任	13	74	40	214	300	277	188	135	127	1,241	(102)	7.4

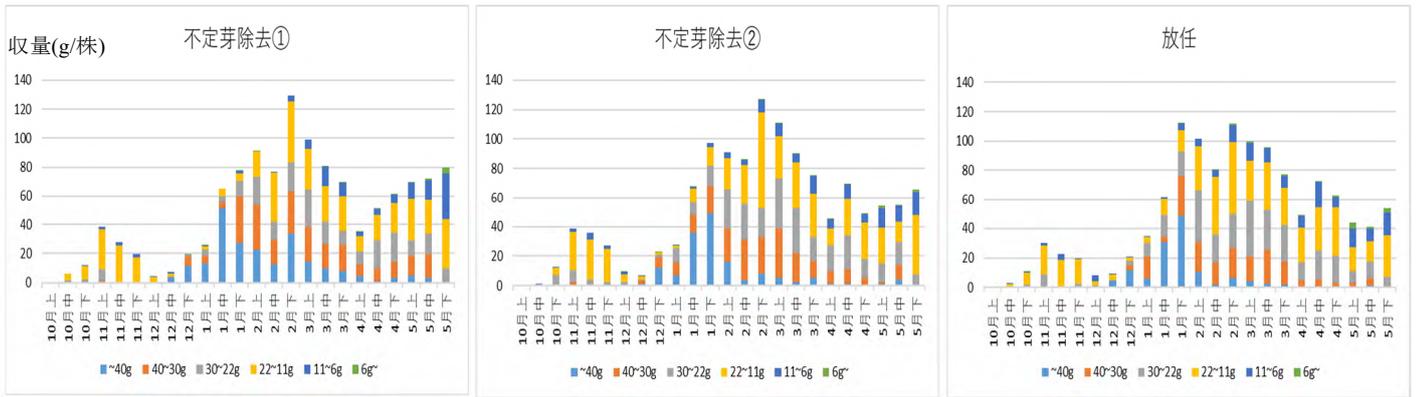


図-1 処理区ごとの旬別収量の推移

表-3 各処理区の障害果発生率 (%)

処理区	乱形果	不受精果	先つまり果				先白果
			軽度	中度	重度	合計	
不定芽除去①	6.0	8.4	0.7	0.6	1.2	2.5	1.3
不定芽除去②	2.7	6.4	0.1	0.3	0.7	1.1	0.7
放任	3.1	9.8	0.5	0.6	0.7	1.8	0.8

表-4 処理区ごとの販売金額の推移

処理区	月別販売金額 (千円/10a) (平均単価 (円/kg))								合計販売金額	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	(千円/10a)	(比率)
不定芽除去①	(4,038)	(2,175)	(1,973)	(1,407)	(1,341)	(1,189)	(1,010)	(827)	9,479	(100)
不定芽除去②	330	1,323	464	1,625	2,447	1,964	983	845	9,982	(105)
放任	321	971	470	1,808	2,414	1,980	1,138	669	9,771	(103)

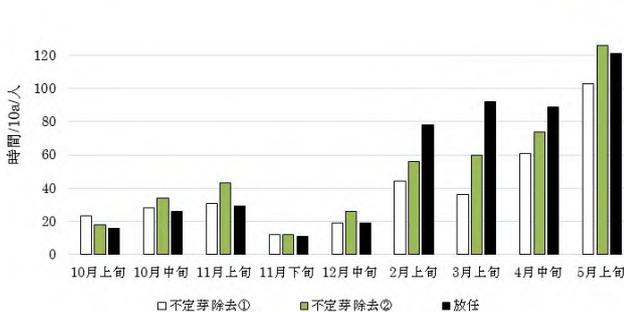


図-2 各処理区の作業時間の推移 (葉かき、芽かき、ランナーとり)

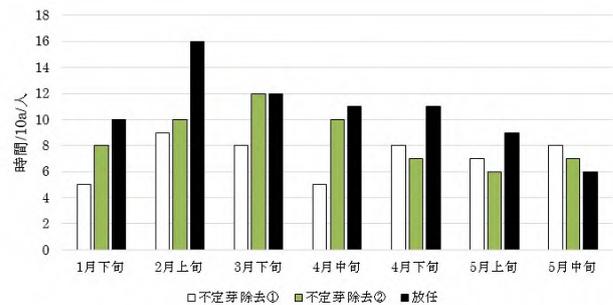


図-3 各処理区の収穫作業時間の推移